

4 人材育成活動

□ 産業振興分野

滋賀大学ビジネスイノベーションスクール

1. はじめに

滋賀県は大手製造業の研究所やマザー工場が集積し日本を代表する工業県であるが、近年グローバル化の影響で製造業の売上高、雇用は減少を続けている。政府も地方創生を掲げ強力な支援を開始した所だが、今後は、本業を維持強化するとともに、新たに成長が見込める地域資源を活用した新しいビジネス(生活文化、環境、農業、余暇、福祉医療、教育、都市開発など)を生み出すことが重要となっている。新しいビジネスは、新たな発想、生活者視点で事業機会を発見し、異業種の既存要素を組み合わせながら、ビジネスモデルを構築していくことが重要である。

そのような認識の下、滋賀大学では 2015(平成 27)年度から相互の交流と戦略的ビジネスプランの策定を通じて、次世代経営者層等の事業創造力、実践力の向上を図ることを目的に「滋賀大学ビジネスイノベーションスクール」を開設した。

本稿は、第2期となる 2016(平成 28)年度の状況について報告するものである。

2. ビジネスイノベーションスクールの特徴

学び直し塾の特徴は、次のとおりである。前半の講義でビジネスプラン策定の基礎知識を学び、具体的な事業を構想し、チーム議論を通じてビジネスプランを立案するという実践的なプログラムとなっている。

- ①イノベーションを起こす新事業のビジネスプラン作成に関する実践的な知識を提供
- ②注目経営者から新事業創造に関する講義を提供
- ③実現を図る具体的な事業を構想しチーム議論を通じてビジネスプランを立案
- ④社会人が受講しやすい時間帯、場所で開講
- ⑤修了者に滋賀大学履修証明を発行

3. 概要

(1) 対象

中堅中小企業の次世代経営者層(事業継承者等)、大手企業のマネージャーなど新事業創造に強い関心を持っている方

なお、学生の場合はレポート審査を行った上で選抜する。

(2) 場所、日程

場所 滋賀大学大津サテライトプラザ(JR 大津駅前日本生命大津ビル4F)

10:00～15:00(1時限:10:00～12:10、2時限:12:50～15:00)

(3) 定員 20名(先着順)

(4) 受講料 社会人 80,000円、学生 免除

(5) 修了者に対する証明

修了者には、「ビジネスイノベーター」として滋賀大学から履修認定を行います。認定は、①2回のレポートの評価、②出席率(8割以上、講義形式の授業は動画による後日講習が可能)、③受講中の評価をあわせて、「ビジネスイノベーター認定委員会」が行います。

(6) 体制

主催: 滋賀大学社会連携研究センター

協力: 滋賀県

後援: (一社)滋賀経済産業協会、滋賀経済同友会、滋賀県産業支援プラザ、(株)しがぎん経済文化センター

4. 2016(平成 28)年度実施成果

(1) 2016(平成 28)年度実施プログラム

表1のとおりである。

【図表1 平成 28 年度実施プログラム】

日付	テーマ	内容	講師
8月20日(土)	開校式1. 革新者たちのイノベーション	新しいビジネスモデルを創出した革新者 100名の事例を踏まえ、イノベーションマインド、スキルについて学びます。	斉藤義明(野村総合研究所未来創発センター2030年研究室長)
	2. ビジネスイノベーター講話①	生活者視点で新しいビジネスを創出した経営者から、実体験に基づいて講義し、ビジネス創出の実態を学びます。	岩波裕之(株式会社ロックウェーブ代表取締役)
9月3日(土)	3. イノベーションのためのビジネスモデル	生活者視点によるビジネス創出に必要なプロセスとビジネスモデルについて学びます。重要な概念について概説した上で、ビジネス創出の一連の流れとツールについて演習を通して学びます。	伊藤智久(滋賀大学社会連携研究センター客員准教授)
9月17日(土)	4. ビジネスモデルの仮説構築・検証	ビジネスモデルの仮説の構築と検証方法について学びます。特に、ビジネスモデルキャンバスおよびバリュー・プロポジション・キャンバスを用いた仮説の書き方と、インタビュー調査による仮説の検証について学びます。	伊藤智久
10月1日(土)	5. イノベーションのための組織とリーダーシップ	新しいビジネスの創出に必要な組織とリーダーシップについて学びます。特に、議論のファシリテーションやチームでの意思決定、リーダーシップの発揮の仕方について学びます。	小野善生(滋賀大学経済学部准教授)
	6. ビジネスイノベーター講話②	生活者視点で新しいビジネスを創出した経営者から、実体験に基づいて講義し、ビジネス創出の実態を学びます。	矢島里佳(株式会社和える 代表取締役)
10月15日(土)	7. ビジネスプラン研究に向けたアイデア創出	滋賀県における起業創業支援の取組ビジネスプラン研究に向けて、受講生がビジネスアイデアを発表します。発表したアイデアについて、受講生が互いに磨き合います。	武村智司(滋賀県中小企業支援課課長) 伊藤智久
	8. イノベーションのための財務予測と資源調達	新しいビジネスの創出に必要な財務予測と資金調達について学びます。特に利益の出し方や収支の予測モデル、様々な機関からの資源調達の方法について学びます。	近兼敏(滋賀大学社会連携研究センター特任教授)

10月29日(土)	9. ビジネスプラン研究	チームでビジネスプランの策定を行います。企業チームまたは個人での策定も可能です。毎回、受講生がビジネスプラン研究の進捗を報告します。想定していた仮説の検証結果について報告した上で議論をし、講師陣から助言を受けながらプランを修正・改善していきます。	伊藤智久 竹中厚雄(滋賀大学 経済学部准教授) 小野善生 石井良一 近兼敏
11月12日(土)	10. ビジネスプラン研究		
11月26日(土)	11. ビジネスプラン研究		
12月10日(土)	12. ビジネスプラン研究		
12月23日(土)	13. ビジネスプラン研究		
平成29年1月7日(土) 15-18の予定	14. ビジネスプラン報告会、修了式	受講生がビジネスプランについて報告します。企業経営者やベンチャーキャピタルやインキュベーター等の外部審査員を招き、ビジネスプランの審査を行い、優れたプランは表彰します。なお、講座終了後も、ビジネスプラン実現に向けて適宜助言します。	岩波裕之 志賀文昭(株式会社しがぎん経済文化センター 主席研究員) 講師陣

(2) 担当講師

伊藤智久(滋賀大学社会連携研究センター非常勤講師、明星大学経営学部准教授)

竹中厚雄(滋賀大学経済学部准教授、社会連携研究センター副センター長)

小野善生(滋賀大学経済学部准教授)

近兼敏(滋賀大学社会連携研究センター特任教授)

石井良一(滋賀大学社会連携研究センター教授)

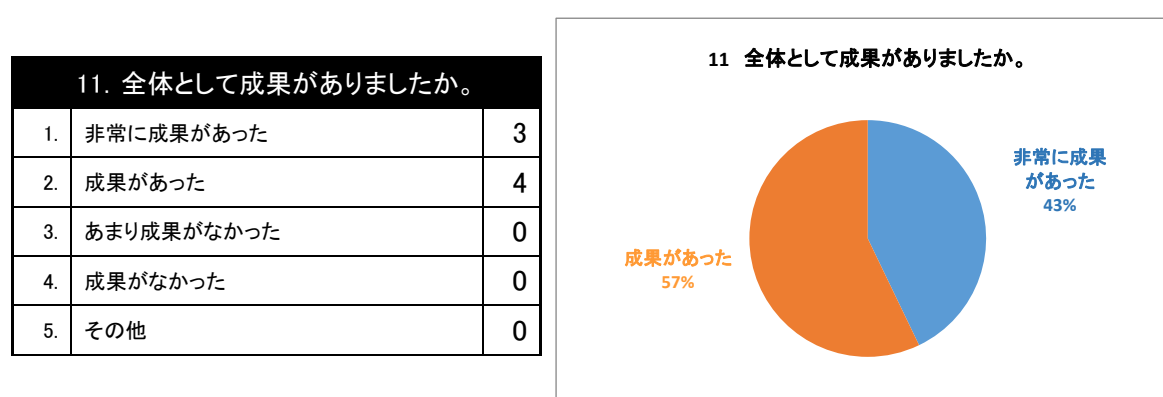
(3) 受講生及びビジネスインベーターの認定

社会人7名、滋賀大学経済学部学生2名の計9名が受講した。このうち社会人7名が4つのビジネステーマについて、最後までビジネスプラン策定に取組み、その7名をビジネスインベーターとして認定した。

5. 受講生の評価

受講生を対象に、本スクールへのアンケートを実施した。授業の回数、難易度、課題やレポート等の作業量、評価、成果等について率直な意見が寄せられた。成果については、多くの受講生が「成果があった」と評価している。

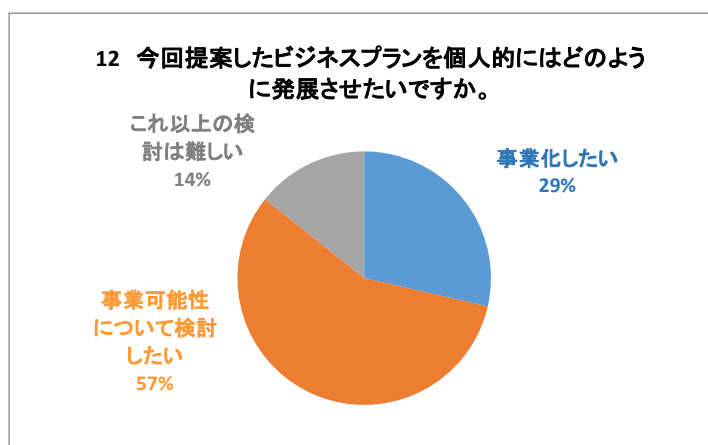
【図表2 受講者の評価】



- ・マーケティングにおける仮説検証が大変だと身をもって体感することが出来た。
- ・インタビュー調査、ビジネスモデルキャンパスとバリュー・プロポジション・キャンパスの考え方を知り、具体的に作成することが出来たこと

- ・公開プレゼンの場で発表できたことは、私の中で温めてきた思いを、そのまま実践して行ってよいという気付きになりました。自分に少し自信がつけました。
- ・産業振興も健康福祉政策も、切り口は違うが同じ方向を向いているのだと実感できた。また、異業種や異分野の人と交流を深めることは、知識やネットワークの幅を広げることに繋がり、それぞれの人が社会課題を解決するための選択肢を得るための有効な手段となると感じた。
- ・成功するか（実際に取り組むかは別にして）講評で一定関心を持って聞いていただけたので、少しだけ自信がついた。

12. 今回提案したビジネスプランを個人的にはどのように発展させたいですか。		
1.	事業化したい	2
2.	事業可能性について検討したい	4
3.	これ以上の検討は難しい	1
4.	その他	0



- ・若年無業者の併走型支援について、事業化を検討していきたいと思っています。どれだけ地域とのネットワークを作れるかが鍵と聞いており、ここに取り組んでいきます。
- ・リーダーがご自身の事業として検討を進められるなら面白いと思います。
- ・（自分の事業として）より精査して、事業化を目指します。
- ・現実的にはこれ以上の検討は難しいと思う。

6. 今後に向けて

今年度は7名(当初9名)の参加者で、4グループに分かれて精力的にビジネスプラン作成に取り組み、多くの方から高い評価を受けた。昨年度を受講生の中からは、会社創設を具体的に考えている者もいる。主催者としては本スクールが社会的課題に応じていると認識でき、頂いた意見を受けて改善を図りながら、発展的に継続していきたい。

(文責 教授 石井 良一)